

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper

きょうさいたより



「佐世保四ヶ町アーケード 冬の風景」
写真提供 佐世保市観光物産振興局

SASEBO KYOSAI HOSPITAL

〒857-8575 長崎県佐世保市島地町10番17号

(代表)TEL 0956-22-5136

紹介受付専用FAX(地域医療連携室) ☎ 0120-12-2067

ホームページ <http://www.kkr.sasebo.nagasaki.jp>

急患室直通FAX電話 0956-22-6052 (代表)FAX 0956-25-0662

※休日・夜間のご連絡は、急患室直通の番号でご連絡下さい。

ごあいさつ

院長 木寺 義郎
きでら よしろう



去る10月に佐世保市医師会の創立百周年記念式典がありました。歴史的に見ると佐世保が急激な変貌を遂げたのも明治41年の此の頃です。海軍鎮守府が開庁した明治22年の人口は僅かに6千人でしたが、この年には10倍以上に膨れ上がり、男性が女性よりも約2倍も多いという不自然な構成でした。衛生面の対策は遅れ、コレラやペストが発生し、前年にはペストの根絶のために下矢岳町全町が焼却されています。

ライフラインが整いだしたのもこの頃で、電話の開通や電気の供給が始まっています。特に水不足はそれまで深刻でしたが、この年に山ノ田水源地が竣工し水道の給水が始まりました。

当院のルーツもこの頃まで遡ります。鎮守府の造船部門が佐世保海軍工廠と改称し、職工のための病院として明治44年に開設されたのが始まりです。社会環境も医療情勢も全く変わりましたが、地勢には今も当時の面影が残っています。



■明治44年開設当時の佐世保共済病院（松の繁る海岸は現在、佐世保川沿いの道路）

循環器科部長就任の御挨拶

むらかみ きんしろう
循環器科部長 村上 謙士郎



略歴

- 出身地／佐世保市
- 出身大学／帝京大学 平成3年度卒業
- 主な職歴／平成4年 福岡大学第二内科入局
平成8年 博愛会病院 内科
平成9年 白十字病院 循環器科
平成11年 熊島巡回会病院 循環器科
平成14年 福岡大学病院 第二内科 助手
平成15年 佐世保共済病院 循環器科
- 専門領域／循環器科
- 所属学会／日本内科学会
日本循環器学会
日本心臓リハビリテーション学会

当院に勤務して5年半経ちましたが、10月より循環器科部長を命じられることとなりました。当院内科も地方医師不足のあおりを受け今春よりスタッフが半減し、循環器科に関しては、常勤は私1名となり、3名の非常勤医師にも週1~2回の外来診療をお願いしている状況です。そのため心臓カテーテル検査等の必要な患者さんに関しては、総合病院や労災病院、中央病院の循環器科の先生方の御厚意により協力体制を頂いています。おかげさまでこの半年間は順調に連携がとれている状態です。この場をお借りして3病院の先生方には深く御礼申し上げます。

現況の中、今後も医療レベルを維持し内科医そして循環器医として地域の患者さんや当院の今後の発展に貢献していきたいと思いますので宜しくお願ひ致します。

合同慰靈祭の開催報告

副院長 萩原 博嗣

去る10月4日土曜日に本年の佐世保共済病院合同慰靈祭が当院8階大講堂でしめやかに執り行われました。

昨年8月からの1年間に当院で闘病の末お亡くなりになられた方々は206名で、今年も146名におよぶ多くの御遺族の参列を頂きました。

九品院の小田義海御住職の読経、故人一人一人の御名前の読み上げに続き、参加者全員が焼香を行い、亡き方々のありし日を偲ぶ一時でした。小田住職からは仏説に語られた「四苦八苦」の思想を説き明かす、御法話がありましたが、生きてあることの尊さを感じるとともに医療者としては尚一層の精進が求められていることをあらためて自問する大切な機会であったと思います。



■合同慰靈祭の様子

学術講演会の開催報告

臨床検査科部長 井関 充及

西暦2000年、アメリカ合衆国において2万3千個のヒト遺伝子情報の解読完了宣言がなされて以来、遺伝子研究は目覚ましい進歩を遂げております。

遺伝子操作による身体への影響や食の安全の視点からみた遺伝子解析による食品検査など身近な話題から遺伝子関連ビジネスの広がりを提示されました。最近のトピックスでは自宅で出来る遺伝子検査として生活習慣病リスク検査キットや個人のDNA保存など興味ある話題を提供されました。さらに、遺伝性疾患などヒト遺伝子検査受託に関する倫理指針遵守の重要性を述べられました。オーダーメイド医療は個人に適合した治療を目的とする遺伝子検査であることが説明され、オーダーメイド治療が効果を挙げるためには倫理指針遵守のもとに遺伝子情報の集積と情報の電子化が必要であると紹介されました。

日時：平成20年11月11日（火）

18:45～

於：当院8階大講堂

演題：遺伝子検査をめぐって

～検査センターの取組み～

演者：三菱化学メディエンス（株）

代表取締役

吉富 敏彦 先生



「にきび」治療のご紹介

皮膚科医長 御塚 加奈子

皮膚科で日常的に取り扱っている「にきび」は、炎症性のにきび（赤いにきび）と非炎症性のにきび（毛穴の詰まった状態、白や黒色のにきび）に大別されます。炎症性の赤いにきびには、抗生素質のぬり薬や内服による治療が効きますが、非炎症性のにきびには有効な治療法がない事がかねての問題でした。

このほど「外用レチノイド」という新しいぬり薬が保険適応となり、使えるようになりました。この薬は、海外では炎症性・非炎症性の両方に効く第1選択薬としてすでに80カ国以上で承認され、高い効果が得られています。日本でもこれに伴って新しい治療ガイドラインが作られ、にきび治療のあり方が変わっていくものと期待されます。

当科でも10月22日から処方しており、従来の治療に加えて更に幅広い効果を得ることができますと考えていますので、にきびや肌のざらつきでお悩みの方は気軽にご相談ください。



■赤にきび



■黒にきび、脂栓



■白にきび、脂栓

はじめに

関節リウマチは関節の痛みや腫れを特徴とする疾患で、原因は不明であり多くの関節に炎症がおこり、その結果関節の破壊が進行し変形や機能障害をおこすことがあります。



頻度

わが国では約0.5%の有病率で約70万人の患者さんがいると考えられ、女性に多く男性の約3倍の頻度となっています。30~50才代に発病する方が多いのですが、いずれの年齢でも発症する可能性があります。

症状

最も典型的な症状は両手の指の関節(中手指節関節:指の付け根の関節、近位指節関節:指先から2番目の関節)が腫れて痛むようになり、朝こわばるようになります。どの関節にも症状は起こる可能性があり、同時に複数の関節が痛むことも珍しくありません。関節の破壊が進むと外見上変形が目立つようになり痛みも持続し動きも更に悪化します。ただし軽症から重症まで、症状は多彩です。

診断

関節リウマチの診断には一般的にはアメリカリウマチ学会が作った診断基準(図1)が用いられています。ただし発症早期の診断にはあまり適していません。検査としては採血、X線写真がまず行われます。

採血の項目では血清のリウマトイド因子(RF)、血沈、CRPが測定されます。RFはリウマチ患者の多くで陽性となります。しかし、陽性とならないことがあります。逆にリウマチ以外の病気や健康な人でも陽性となることがあります。血沈、CRPは炎症の活動性の目安となります。

最近では抗CCP抗体、MMP-3も測定されるようになっています。抗CCP抗体はRFと同様、リウマチ患者さんで陽性となることが多いのですがRFよりも診断精度に優れ、特に発症早期から陽性となって有用性が高く、MMP-3はCRPよりも鋭敏に炎症の状態を反映する指標となるもので、どちらも最近では欠かせない検査となっています。X線写真はある程度進行すると変形などが診断基準の一つを満たしますが、病気の初期であればあまり診断の手助けにはなりません。病気の進行の程度や治療の効果判定に使われます。

近年の研究で関節リウマチの進行は発症早期、特に1年間の進行が急速であることが明らかになっており、破壊が進む前の早期に積極的に治療を開始する事の重要性が認識されています(図2)。

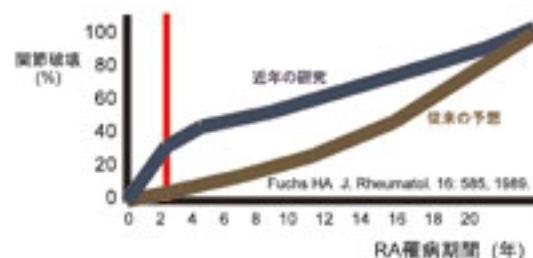
図1 アメリカリウマチ学会改訂RA診断基準(1987年)

7項目中4項目以上該当でRAとみなす

- 1時間以上の朝のこわばり
- 3関節領域以上の関節腫脹
- 手関節、MCP関節またはPIP関節の腫脹
- 対称性関節腫脹
- リウマトイド結節
- 血清リウマトイド因子陽性
- 手指または手関節の典型的X線像
(1.~3.は6週間以上)

図2 早期RA(発症2年以内)の治療の重要性

関節破壊は発症2年内に最も早く進行
75%の症例は、発症2年内にすでに骨びらん(+)



治療

薬物治療と手術治療に大別されますが、薬物治療が中心となります。

1. 薬物治療

a. 非ステロイド性消炎鎮痛薬(NSAID)

痛みと炎症を抑える速効性のある薬で怪我や腰痛など一般的に痛み止めとして用いられているものです。ただしリウマチの進行そのものを抑えるものではなく、また胃腸障害も起こしやすいなどあくまで調子に合わせて使う追加的なものと考えた方が良いでしょう。

b. 副腎皮質ホルモン薬(ステロイド)

少量で炎症を強力に抑えますが、様々な副作用の問題や長い間使用していくと体内での産生が減少し、服用を急にやめるとリウマチの痛みが悪化したりするため徐々に減らす必要があります。局所的に炎症が続く時には関節内に注射することもあります。

c. 抗リウマチ薬(DMARD)

関節リウマチの免疫異常に働きかけることにより炎症を抑え病気の進行自体を抑える目的のものです。一般に効果が現れるのが遅く早くて1ヶ月、2~3ヶ月かかることがまれではありません。効果がみられなければ他のDMARDに切り替えたりします。現在のところDMARDが価格、使いやすさなどからリウマチ治療の中心となっています。

d. 生物学的製剤

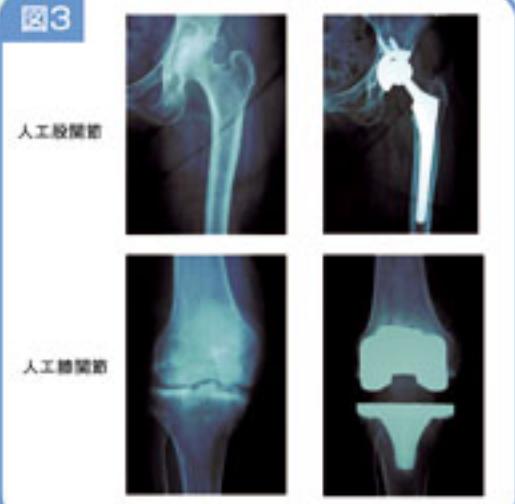
通常の薬のように化学的に合成したものではなく、生物が產生したタンパク質を利用して作られます。この生物学的製剤の登場により関節リウマチの治療は飛躍的に進歩しました。今まででは寛解(リウマチの症状が消失し検査所見が正常になる)状態を目指して治療を行い、それでも関節の破壊がゆっくりと進行することが稀ではありませんでしたが、この生物学的製剤の使用により関節の破壊を阻止する真の完全寛解が期待できるまでになりました。一方問題もあり、非常に高額であり、効果が強い分副作用も多く、第一選択の薬となるわけではありません。ただしリウマチの進行を強力に抑制することのメリットは非常に大きいものがあります。

2. 手術治療

薬物治療の進歩にもかかわらずまだまだ関節障害のため手術が必要な患者さんもたくさんおられます。リウマチの手術には主に人工関節置換術、滑膜切除術、関節形成術、関節固定術があります。

人工関節置換術は主に膝関節および股関節に行われ、安定した成績が得られています(図3)。歩行での重要な関節であるため、ある程度関節の破壊が進行してしまうと、その痛みや変形で動かさなくなる事で活動性が減り結果として筋力や体力の衰えが急速に進み、全身への悪影響もありますので、我慢し続けずに手術時期を遅らせない事も大切です。その他、数は少ないものの肩・肘などに対する人工関節も行われています。

図3



おわりに

関節リウマチは早期診断、早期治療が非常に重要です。薬物治療が中心となりますが長期に続ける事が多く副作用の問題もありしっかりと診察を継続することが大切です。状況によっては手術を併用することで痛みを抑え活動性を向上させ、生活の質を維持していくことが可能です。

第14回連合会職員・美術展を終えて

もり き たつ ひこ
総務課 森木 達彦

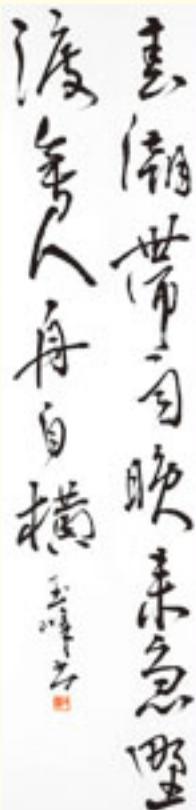
この美術・文芸展は、連合会35病院と本部の職員及びOBを対象として毎年行われているもので、今回で14回目を迎えることとなりました。募集部門は、絵画・書道・写真・俳句・短歌で、今年は107作品あった応募の中から、当院の職員及びOBの作品は3作品が入選いたしました。当院OBの先生方も応募できますので、来年はぜひ奮ってご応募ください。(応募受付期間は、8月下旬頃の予定です。)

佐世保共済病院 職員・OB 受賞者

「書道の部」特 選

太郎浦 幸子 「七言二句」

「字を書くときは恥をかく」という悪筆の私が一念発起して書を習い始めたのが定年退職後2~3年経ったことです。筆を執るのは小学生時代以来のことです。筆の持ち方から指導を受けたものでしたが、「石の上にも3年」とやら10年以上続けまして今回の条幅作品が書けるようになりました。この度の入賞に際しまして、「きょうさいだより」に取り上げていただくことになり、身に余る光榮でございます。後期高齢者といえども頑張れることの証になればと思い、お受けいたしました。



「絵画の部」入 選 吉田 富士子「ハウステンボス」

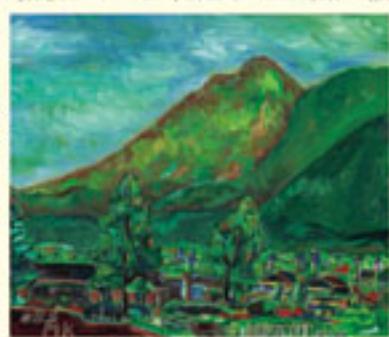
50歳になって、あと10年もすれば定年を迎えると思い、始めた絵です。ハウステンボスは、建物の形、色彩、レンガ、運河、森など絵になる所ばかりですが、今回は入り口に近い所を描きました。仕上げるのに約2ヶ月、何回も何回も色を重ね、運河と木の下に射すわずかな日の光を表現したつもりです。まだまだ勉強中ですが、これからもゆっくり描いていきたいと思っています。



「絵画の部」奨励賞 村田 一清 「静かに眠る雲仙普賢岳」

今から12年前、島原半島の警察署に勤務している時、近くの公民館で絵画教室があり挑戦したのが始まりで、それ以来絵になるところを見つけては描き続けている。普賢岳は、噴火が収まり、元の平穏さを取り戻し、静かな眠りについているが、その山の姿は絶景で絵にして残したい気持ちで描いた。

其の日に書き終わらないときは、当日撮った写真を観て仕上げている。



TOPICS

クリスマスコンサート開催のご案内

文化部長 かき もと ただ しげ
垣 本 忠 重

例年開催しております院内クリスマスコンサートを12月19日(水)18時30分より北館8階大講堂にて開催することとなりました。今年も当院スタッフによる歌声や演奏などを予定しており、来場者の方々に楽しんで頂こうと練習に励んでおります。皆様のご来場を心よりお待ち申し上げております。



■昨年のコンサートの風景

地域医療連携室より

Part.3

医療法人わかば会 俵町浜野病院

佐世保市俵町22-1
TEL:0956-22-6548

はまの
院長 浜野 裕先生

今回はいつも患者さんのご紹介をいただいている浜野裕先生にお願いしました。



当院は、先代院長浜野洪範が昭和25年佐世保市立北市民病院院長を辞し、俵町に耳鼻咽喉科医院を開業したことになります。昭和62年に72床の病院に改編した際、私が大阪から戻り現在に至っています。私の医局は阪大第1内科循環器科で、室内が関西医大第2内科消化器科ですが、当院の外科医の洞上医師(平成13年国立病院九州医療センター救急部長を辞し当院へ)とは、3人とも久留米大学の同級生です。

日本は高齢化社会となって、介護保険制度が導入されるようになり、当院のしくみも変化してきました。医療の方では、救急告示病院として26床の一般病床(3階)と、38床の医療療養病床(4階)がありますが、療養病床にも気管切開、人工呼吸器のような高度な医療を要する方が増えています。

介護の方でユニークな点は、病院の5階にグループホーム(3ユニット)を併設している点です。つまり、3階は一般病棟、4階が療養病棟、5階がグループホームとなりますので、グループホーム入所者は、常に医療的ケアを受けることができています。このグループホーム入居中の方で、元旦に腸閉塞となられ、共済病院外科で緊急手術を受けて、現在も元気に生活している方がいらっしゃいます。外科のみならず、萩原先生を中心とした整形外科の先生には、診療や休日、夜間当直にも来ていただいており、また麻酔科の深野先生に月に一度診療をお手伝いいただいておりとても助かっています。放射線科の野々下先生には、画像検査や読影をしていただくことがたびたびあり、とても感謝しております。

これからも共済病院の諸先生方には、お世話になることが多いあるかと思いますので、よろしくお願ひいたします。■写真は浜野先生(後方右から二番目)、洞上先生(後方中央)とスタッフの皆さん



年末年始の当直体制 (平成20年12月27日～平成21年1月4日)

	当直	
	8:30～17:30	17:30～翌8:30
平成20年12月27日(土)	整形外科	内 科
28日(日)	内 科	皮膚科
29日(月)	泌尿器科	外 科
30日(火)	内 科	放射線科
31日(水)	麻酔科	眼 科

	当直	
	8:30～17:30	17:30～翌8:30
平成21年1月1日(土)	放射線科	整形外科
2日(日)	内 科	眼 科
3日(月)	外 科	放射線科
4日(火)	内科・外科(二次待機)	

※産婦人科は連日待機しております。

編集後記

12月7日 福井仁士前院長の1周年を迎えるました。すでに発刊された過去の「きょうさいだより」を開きますと、福井先生の親しみ溢れる言葉が綴られており、あまりにも早すぎるご逝去をただただ残念に思うばかりです。執筆に大変意欲的だった福井先生の意思を引き継ぎ、これからも当院のホットな話題を提供していきたいと思います。

編集委員 森木 達彦

科	役職	医師名	月	火	水	木	金	備考(専門分野・特徴など)		
			午前	午後	午前	午後	午前	午後		
内科	部長	松見 里美	●			●		●	内科一般	
	"	藤澤 伸光	●			●		●	呼吸器疾患	
	"	村上謹士郎	●	●			●	●	循環器疾患	
	医長	原口一郎	●				●	●	腎臓疾患	
	医員	高島 篤		●	●				腎臓疾患	
	"	鈴木 邦裕		●			●		呼吸器疾患	
	非常勤医	田渕くみ子		●					循環器疾患	
	"	有村 忠聰						●	循環器疾患	
	"	多胡 素子			●				循環器疾患	
小児科	部長	岡 尚記	●	●				●	小児一般	
	医長	黒田 直宏	●	●	●				小児アレルギー疾患	
	医長	竹ノ下由昌			●		●		気管支喘息	
	非常勤医	小松 博子				●			火曜PM1:00~	
	医員	乳児健診			●				水曜PM2:00~	
	医員	慢性外来				●			木曜PM2:00~	
外科	外科顧問	松永 章					●		内視鏡下外科・一般外科・消化器外科	
	部長	井原 司	(●)			●	●		内視鏡下外科・一般外科・消化器外科(月曜日は紹介のみ受付)	
	医長	澤田健太郎	●			●			血管外科・一般外科	※乳癌検診は、10時までに
	"	川畠 方博		●				●	一般外科・肝胆脾外科	受付を行って下さい。
	"	原田 洋		●				●	一般外科・消化器・乳腺外科	(要予約)
	医員	龍 泰彦	●		●				一般外科・消化器外科	
	"	平川 雄介				●			一般外科・消化器外科	
	"	追田 京佳		●				●	呼吸器外科	
整形外科	副院長	萩原 博嗣	●		●			●	骨関節疾患全般	
	部長	久我 尚之		●	●	●		●	・股・膝関節の間節形成術、人工間節置換術	
	医長	寺本 全男	●				●	●	・膝・肩・手・肘の鏡視下手術	
	医員	花田麻須大	●		●			●	・脊椎外科、腰部疾患手術	
	"	貝原 信孝		●			●	●	・肩・手の外科	
	"	古賀美穂子	●		●			●	・リウマチ、スポーツ整形外科、足の外科など	
	"	畠野 崇		●		●		●	・骨・軟部腫瘍	
皮膚科	医長	御嶽加奈子	●	●	●	●	●	●	アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、足白癬、帯状疱疹	
	医員	鶴田 起子	●	●	●	●	●	●	皮膚腫瘍、男性型脱毛、その他	
泌尿器科	診療部長	山田 誠	●			●		●	尿路結石、尿路腫瘍、前立腺疾患	
	部長	江口 二朗		●		●		●	体外衝撃波結石破碎術(ESWL)、尿失禁、尿路感染	
	医員	東武 邦平		●		●			男性不妊(江口部長)	
	"	松尾 朋博	●							
産婦人科	院長	木寺 義郎	●						産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患	
	部長	鶴地 伸宏	●	■	●				腹腔鏡下手術、更年期・婦人科疾患	
	医長	河野 善明	●		●		■	●	※●: 婦人科診療日 ■: 産科診療日	
	医員	岩永 巍	●■	▲	●■			●	※▲は病棟回診後に診察開始のため遅れます。	
	"	山本 奈理	●		●			■		
眼科	医長	宇野 英明	●	●	●	●	●	●	白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、網膜剥離手術、眼軸下筋手術	
	医員	舌間 朋美	●	●	●	●	●	●	翼状片手術、レーザー光凝固術、光凝力覚療法、眼瞼痙攣のボツリヌス注射など	
耳鼻咽喉科	医長	佐藤 公治	●	●	●	●	●	●	※火・木曜の午後は術前検査と特殊再来(要連絡)	
	医員	渡邊 智	●	●	●	●	●	●	アレルギー性鼻炎のレーザー治療・小児の耳鼻咽喉科疾患	
放射線科	医長	野々下政昭	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問い合わせは、外来までお電話下さい。				MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査、消化管造影			
	医員	松藤 奈穂								
	"	江畠 智広								
麻酔科	部長	深野 拓	●			●	●	●	月～金午前ペイン外来	
	医長	吉村 真紀	●				●	●	月～金午後は手術麻酔	
	医員	鶴瀬 国祐		●		●				
	"	木本 文子	●	●			●			
	"	中原 春奈	●	●	●					
	非常勤医	別府 幸岐								
歯科 口腔外科	医長	川村 英司	●	●	●	●	●	●	●	歯科・口腔外科(紹介患者のみ新患受付)
	医員	中井 大史	●	●	●	●	●	●	●	難変形症(外科的矯正)・インプラント・歯牙移植・智歯摘除・付着・ヨコなど
健診 センター	医長	原 敏一	※お申し込み・お問い合わせは、健診センターまでお電話下さい。							
	糖尿病教室				●	●	●	(第2・3週のみ) ※詳細は内科外来へお尋ね下さい。		
ストーマ外来			※お申し込み・お問い合わせは、外科・認知器科外来までお電話下さい。							